

地域包括支援センター評価総評とフィードバックについて

1. 評価総論

総合的に高い評価を得ている地域包括支援センターは、包括的・継続的支援業務において、介護支援専門員等の多職種連携の仕組みづくりや地域づくりへの取り組み、地域での健康づくりや介護予防の仕組みづくりに取り組んでいた。

地域包括ケアシステムの構築に向けた幅広い取り組みが今後も求められるため、担当圏域、担当校区の現状把握と課題の抽出、課題解決への仕組みづくり等が必要であり、かつその仕組みづくりには専門職だけでなく、地域住民や様々な地域資源を巻き込んだ展開が必要となる。

これまでの地域包括支援センターは、センター自身が動き、活動するものであったが、今後は人や資源を動かすコーディネーターの役割や人材育成に必要なコーチングの能力を高める必要がある。

市としては本庁で、全市的な課題や仕組みづくりを、また求められている能力向上のための研修等を実施し、区役所にてその区や地域ごとの特色を生かした取り組みの支援を行っていきたい。

2. 各地域包括支援センターへのフィードバックについて

(1) フィードバック資料（案）

- 総括（資料 3）

- 自己評価・行政評価について（全体の傾向や課題）（資料 1）

- 自己評価・行政評価・外部評価の自己点数と平均点を載せたもの（資料 3-1）

- 外部評価（資料 2-1）

- 2000 人アンケート結果（資料 2-4）

(2) フィードバックの方法

各区役所福祉課へ結果の説明を行い、全体的な傾向や今後の改善点について意見交換を行う。

その後、各区役所毎に地域包括支援センターを集め、結果説明を行い、評価に関きがあるセンターについては、区役所福祉課も同席し、個別に育成面接を行う。